



4歳児クラス(2月)
「あったらいいな
こんな乗り物」

第8回 幼児教育実践学会 口頭発表 2017.8

子どもの創造性を豊かにする幼児教育を考える

熊本県 荒尾第一幼稚園 教諭 福田詩歩 教諭 岩本里穂 教諭 松川夏海 園長 宇梶達也

概要

造形素材に向かい、工夫し、作品を作り出そうとする子ども達の姿に、「学びに向かう力」を感じます。

年中組2月、数日間に渡る造形活動を行いました。その活動を検証し、園内で創造性について考えました。今まで行って来た感性を養う取り組みや、身体表現活動、想像で遊ぶ参加劇(ごっこ遊び)、課題解決型の造形活動の実践を報告します。また、造形活動が子ども達の育ちにつながったと思われた事例をいくつか記録することができました。

「創造性」は、生活のあらゆるところにあると思いますが、今回、造形活動・表現活動を中心に、創造性を豊かにする幼児教育を考えました。

乗り物プロジェクト 年中組2017年2月

教諭 福田詩歩

乗り物に関する約2週間の活動。乗り物の絵画活動等を行い、最後に色画用紙を用いて、立体の乗り物作りをする。乗り物は自分が

「あったらいいな」と思う乗り物を想像し、製作する。

ねらい

- ・ 様々な乗り物を知り、興味を持つ。
- ・ 乗り物の色や形をとらえる。
- ・ 画用紙といった平面を使い、立体を作ることにも挑戦する。
- ・ 「あったらいいな」と思う乗り物をイメージし、絵や立体で表現することを楽しむ。
- ・ 完成して嬉しい気持ちや困ったこと、わからないことを保育者や友達に伝える。
- ・ 友達の作品に興味を持つ。
- ・ 試行錯誤しながら最後まで粘り強く取り組み、満足感を味わう。

1日の流れ (「遊び」と「クラス活動」が入れ替わることもあります)

- 10:00 朝の活動
- 10:15 クラス活動
- 11:00 遊びの時間(主に園庭)
- 12:00 昼食
- 13:00 遊びの時間(主に保育室)
- 13:20 帰りの活動
- 14:00 降園

年中組 2017年2月 「のりもの」に関するクラス活動 概要				
男児 4 名 女児 10名				
実践者 もも組(年中組) 担任 福田詩歩				
	内容・タイトル	活動内容	配慮事項	対話の活動
1	2/2木 絵本探し 「どんな乗り物があるかな」	絵本の部屋で乗り物が載っている絵本を探す。	様々な形態の乗り物に興味を持てる活動となるようにする。	見つけた絵本をみんなの前で紹介する。
2	2/6月 絵本の模写 「乗り物を描こう」	好きな乗り物の絵本を選び、白い画用紙にクレヨンで絵本を見ながら乗り物を描く。	色や形に着目して描くよう、言葉掛けをする。	帰りのお集まりの時間に、みんなの前で描いたものを紹介する。
3	2/7火 立方体作り	白い画用紙で立体を作る。使用道具：ハサミ、セロテープ	今後の乗り物製作に向けての基礎となるように取り組む。技法取得が目的。	製作後、出来上がった作品を教師や友達と見合い、会話をします。
4	2/8水 色画用紙を使った立体製作1 乗り物 「乗り物を作ろう」	色画用紙(クレヨンにある色)を使い、乗り物を製作する。使用道具：ハサミ、セロテープ	自分が描いた絵本の絵を完成図として製作。平面ではなく、立つこと。立体であることを課題とする。	教師に、イメージや困っていることを伝える。明日の課題を見出す。
5	2/9木 絵本に描かれている乗り物。自分で模写したもの(2/6月)を手本に。	昨日(2/8水)の続き。	課題(完成)に向かって取り組めるよう、見守る。必要に応じて言葉掛けをする。	作った乗り物をみんなに紹介する。
6	2/13月 共同絵画 想像画(家) 「住んでみたい家、こんなおうち」	広用紙(約3m)にクラス全員で住んでみたい家を描く。	明日(2/14火)行う、想像画(乗り物)に向けての準備活動となるようにする。	絵を描き始める前に、どんな家にしたいか言葉にする。
7	2/14火 想像画 「あったらいいなこんな乗り物」	白い画用紙に、クレヨンで「あったらいいな」と思う乗り物を描く。 (設計図)	この活動を計画するにあたり、これまでに乗り物の絵本(実際にはないような乗り物)を見る時間をとる。	絵を見ながら、教師と子ども1対1で性能・特徴などを聞いていく。
8	2/15水 色画用紙を使った立体製作2 乗り物 「あったらいいなこんな乗り物」	色画用紙を使い、乗り物を製作する。使用道具：ハサミ、セロテープ	色画用紙は、デザインに近づけることができるよう、クレヨンと同じ色、大きさは3種類、用意する。	今日、製作したことを教師と子ども1対1で振り返り、明日取り組むことを考える。
9	2/16木 想像した乗り物。自分で描いたもの(2/14火)を手本に。	昨日(2/15水)の続き。	完成した満足感や充実感を味わっている姿を受け止め、共に喜んだりする。	作った乗り物をみんなに紹介する。

	考察
2/2木	「たくさん探すぞ！」と意欲的に取り組む姿があった。友達が見つけた絵本にも興味を持っていた。保育者の言葉かけ（「何の乗り物が載っている絵本かな？など）が足りず、みんなの前で紹介する（言葉にする）ことは難しかった。
2/6月	色や形を捉えて描くように伝えていると、色は捉えて描けているように感じた。（以前にも増して）形も大半の子が捉えていたように感じたが、描き表すことは難しい子もいた。前回（2/2木）の反省より、紹介する際、子どもたちが言葉にしやすいように言葉かけすることを意識した。
2/7火	立体の概念をわかっている（わかった）子は、少数だった。しかし、全員が自分なりに「作ってみよう！」と課題に向き合う姿があった。早く完成した子は、困っている友達に対し、手伝うよう伝えると、やってあげる姿があったため、やってあげるのではなく、教えてほしいということを伝えると、テープを貼るときに支えたり、自分なりの言葉で伝えようとする姿があった。今回の活動を終え、これからの活動がこのままの活動案でいいのか悩んだ。
2/8水	昨日（2/7水）の活動のときに得意としていた子が意欲的かと思っただが、全員が「作るぞ！」と意欲的に取り組む姿があり、普段から製作に親しんでいたりと、自分で選んだ乗り物だったから見られた姿かと思っただ。立つこと、立体であることを課題としていたが、参考にした絵本が平面画のため平面で作り出す子が多く、どのように伝えたらいいか悩んだ。八切りの画用紙を台紙に平面で作り、それを立たせようとしたり、平面で製作後、下の部分を折り曲げて立たせようとする姿があった。
2/9木	昨日（2/8水）の経験や、教師との対話により、『今日すること（課題）』が明確になっていたことで、より意欲的に取り組む姿があった。昨日の反省より、立体で作ることをどのように伝えたらいいのか考え、指人形を用いて伝えてみたが、それでも伝わらない部分があったりと、教師の「立体で作ってほしい」という思いと、子どもたちの姿にずれがあり、今後の計画を他の教師と話し合い見直した。
2/13月	描く前にどんな家に住みたいか言葉にした後、描きはじめるようにしたことで、「こんな家に住みたい！」とよりイメージを膨らまし、意欲的に描けたように感じた。教師や友達と会話をしながら（イメージを伝える）描くことをねらいのひとつにしており、子どもたちにもそのことを伝えていると、たくさん会話をしながら描く姿や、絵の具で色を塗るときに、友達に色の作り方を聞く姿もあった。
2/14火	予想以上に子どもたちがイメージを膨らまし、描く姿があり、驚いた。描いた作品自体がいいなと思っただが、描いた作品に対し、一人ひとりと対話する時間をとったことで、「ここは〇〇なんだよ」とイメージをたくさん聞くことができ、作品を見ただけではわからない、子どもたちの想像の世界、想像力の豊かさを感じることができた。
2/15水	1回目の乗り物作りを行い、同じ方法で取り組むのか、空き箱などを使って取り組むのか悩んだが、同じ方法で取り組んだ。前回の経験や、友達の作品を見てきた中で、子どもたちの中に少しずつ「立体」の概念が育ってきたようで、今回は立たせて、立体で作ろうとする姿が最初からあった。また、1回目の乗り物作りでは、絵本が平面画のため、イメージしづらい部分もあったようだが、今回は自分のイメージで製作を進めることができ、より意欲的に取り組む姿に繋がったように思った。
2/16木	今回も、製作に取り組む前までに、一人ひとりと話す時間を設け、『今日やること』を明確にしていたため、製作開始と同時に目的を持って取り組む姿があった。「簡単♪」と言葉にする姿や、以前にも増して製作スピードがあがったりと、これまでの経験が姿に現れていた。完成すると、嬉しそうに「できた！」と教師に伝える姿があり、その姿に満足感を感じた。また、自分でイメージした乗り物ということで、細かい部分も作ったり、みんなの前で紹介する時は、以前に比べ、自分の言葉で話すことができていた。

活動を振り返って

この時期、アクティブ・ラーニングについて考えていたことが数日間に渡る活動につながった。

指導の場面で、立体の概念を教えるに当たって興味関心や育ちに合わない課題を持ってきてしまったりと反省も多々あったが、最後まで子どもたちの集中力がきれない、粘り強さを感じた活動になった。

「なぜ集中力がきれなかったのか？」が職員の話し合いで話題になった。はっきりとした答えはでなかったが、1日の活動ごとに何かしらの「対話」の活動を大切な位置付けで設けていたのが、自分の作品、友達作品、活動への興味関心を持たせたのではないだろうかという意見が出た。また、活動の難しさが徐々に上がっていくこと、前日の活動が次の活動の準備になっていることが良かったという意見が出た。

創造性は「学びに向かう力」を伴った表現

園長 宇梶達也

職員の共通理解を目的に「創造性を豊かにする幼児教育」について話し合いました。「生活のあらゆる面にある」「何かを作り出す活動」「子どもの主体的な活動」と意見が出ました。

「主体性」とは自分で運転したり、操作するような感覚だと思います。「子どもを自由に」と似ていますが、視点はそこではないと、本園は過去の実践で学ぶ機会がありました。

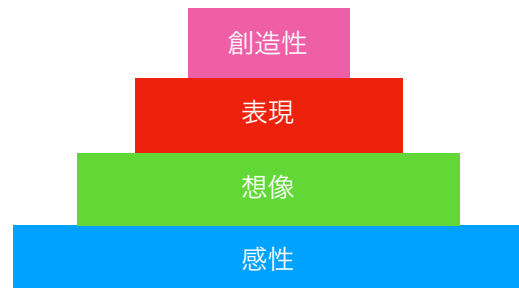
数年前の3学期、年長組雛人形協同製作の実践でのことです。2週間ほどの活動で、ひな祭りまでに7段飾りの雛人形をクラスで完成させるという課題を与え、時間の使い方は子ども達の自由にしました。

製作意欲が高まった子ども達が、遊ぶことも忘れて昼食になる時間まで製作に没頭することがありました。その様子を「主体的な生活と言えるのか」と、担任は疑問に思いました。その後、担任の提案から子ども達は生活

をコントロールすることを学び、より主体的に生活していくようになりました。(荒尾第一幼稚園YouTube「協同的な学び」と「計画性の芽生え」第7回幼児教育実践学会口頭発表の内容)

本園では創造性を以下のように捉えました。

- ・創造性を豊かにする活動は「主体的な活動」。
- ・感性と想像から生まれるのが表現。
- ・創造性は「学びに向かう力」をともなった表現。



上の図は本園での「創造性」共通理解の過程で考えられた成り立ちのひとつの例です。「表現」「創造性」の境界に「学びに向かう力」があるのではと考えると、本研究において創造性が捉えやすくなりました。

「育てたい資質・能力」三つの柱との共通点

新しい幼稚園教育要領の「育てたい資質・能力」の三つの柱と「創造性」が重なることに気がきました。整理してみると次のようになります。

「育てたい資質・能力～創造性」

(1)豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたりする「感性」。分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」。

(2)感性で気付いたこと、知ったことを使って、頭の中で操作し、選択したり思考・判断することで働く「想像力」「表現力」

(3)感性と想像性で生まれた頭の中の考えを、意欲や粘り強い態度によってよりよいものに生み出していく「創造性」「学びに向かう力」。

	育てたい資質・能力	育てたい資質・能力～創造性
(1)	知識及び技能の基礎	感性 知識及び技能の基礎
(2)	思考力,判断力,表現力等の基礎	思考・判断,想像力,表現力
(3)	学びに向かう力,人間性等	学びに向かう力,創造性

幼稚園教育要領「育てたい資質・能力」は、「一体的に育むよう努めるものとする」とあります。創造性もそれぞれの項目が関連しあって育っていくのではないかと考えました。

直観タイプと思考タイプの造形活動

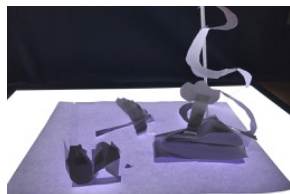
本園では素材・廃材を使って自由に作品を作っていくタイプの造形活動をよく行います。この活動に大きく分けて2つの傾向があることに気がつきました。あくまでも傾向であり、同じ活動でも、ある子どもは考えて行い、ある子どもは偶発的に行ったりと、違うタイプの活動になることもあると思います。

	A.直観タイプ (選択,判断)	B. 思考・課題解決タイプ
内容	素材や廃材を組み合わせて、偶発的に作品が出来ていく。感性や気づき、想像力、表現力が養われる。	自分のアイデアや課題に向かって作品が出来ていく。思考、学びに向かう力、意欲・態度が養われる。知識技能が活動の幅を広げる。

本園がここ半年で行った主な造形表現活動はどのタイプになるのか分類してみました。

A.直観タイプ 「感性」「想像・表現」 が主な活動の例

- ・ライトテーブルの活動
- ・年長組 白い画用紙の形作り
- ・年中組 形の活動(動物作り)
- ・絵の具遊び 夜の空など



- ・色水の活動・マーブリ
ング・砂の活動



B. 思考・課題解決タイプ

思考・課題解決が主な活動の例

- ・年中組 乗り物の活動 製作 (3学期)
- ・年長組 雛人形協同製作 (3学期)
- ・年長組 人形劇作り (1学期)
- ・年長組 家づくり (1学期)

Aの活動で学んだことが基礎となりBの活動が発展して深められていくという指導計画のモデルが考えられます。



課題と知識のバランス (反省から)

2017年2月に行った乗り物製作(年中組)と7月に行った家製作(年長組)は、どちらも色画用紙を使った立体製作で課題解決タイプの造形活動でした。この時、子ども達の製作に対する意欲や想像力は強く感じましたが、時に「知識・技能」「技法」が追いついていかな状況がありました。

造形活動にはハサミの使い方から、紙を折る、丸める、ノリの使い方、絵の具やクレヨンの使い方等、様々な知識・技法が必要です。課題解決タイプの造形活動では特に必要な知識となってきます。活動のねらいにもよりますが、課題として立体製作を行うならばそこにたどり着ける技法を教えたり、立体の概念を感じさせる活動など、子どもの興味関心に即して、行う必要があると感じました。その時、配慮することは、子ども自身が必要感を感じていることです。また「主体的・対話的な活動」であることも重要と感じました。

身体表現活動

身体表現活動や想像性を育む物語を使った参加型劇なども創造性の育ちと関係していると思えました。

(気づき・感性・想像・表現)

年少組 4月『三びきのこぶた』ごっこ遊び
紙芝居をみて、ごっこ遊びを楽しむ。藁・木・レンガ、のおうち作りの場面では、それぞれのお家に見立てられるものを子どもたちの目に入る場所に用意していたので子どもたちから「これを並べてみよう」と積極的に動きだす姿があった。

年少組 5月『でんしゃにのって』ごっこ
絵本を見て、なりたい役になり、自分なりに動物の表現をすることを楽しむ。それぞれの子どもの表現を受け入れることで最初、小さかった動きがダイナミックに動く姿に変わっていた。

年少組 6月 音に合わせて動く
(感性・想像・表現・判断)

・物語に合わせて雨の小雨や土砂降りを声や体で表現することを楽しむ。
・物語の場面、音の強弱や速さの変化に合わせて自由に体を使って表現することを楽しむ。

年少組7月『おおきなかぶ』ごっこ
(想像・表現・思考 予測)

繋がっていく面白さや次の役の友達を呼んだりセリフや物語のリズムを楽しむ。「石になる」と言って話と違う参加をする子がいたが、その姿を認め話が進んでいくとどんどん距離が近くなっていき最後は保育者と一緒に石役ではなく『人間』となって株を引っ張る。

年中組6月 ものを使った表現活動 (想像・表現・思考 予測)



新聞紙、スカーフ、アルミホイルを物語の中で何かに見立てて自分なりの身体表現をする活動。物を使うことで表現が大きくなる。抵抗がある子も入り易い。みんなで石になったりすることや、これから起きること(石を触られること)を予測し楽しんでる姿を感じた。

年長組 5月 影絵
による身体表現
(感性・想像・協力)



年長組 12月 物語
で遊ぶ参加型劇
(想像の共有 判断 協同的態度 課題解決)

表現活動が生み出す情緒の安定

幼稚園教育要領解説の表現の箇所に『～自分の存在を実感し、充実感を得て、安定した気分で生活を楽しむことができるようになる』とあります。



造形活動でその作品や活動に満足感を得た時、他のクラスの教師などの手を引いて作品を見せようとする態度に現れたりします。また、活動の片付けに向かう態度が主体的であったり、生活のなかで自信が出て来たり、安定した情緒を生み出したりすることがあると感じました。

自分たちが製作した作品をより実感するための作品の飾り方、準備段階で調節できること(素材・工程、絵の具の濃さなど)は、子どもの育ちに関わる大切な配慮事項と思いました。



年中組6月 造形表現活動によると思われる子ども達の変化の記録

形プロジェクト(3つの活動)と「夜の空 絵の具遊び」を終えた頃に見られた育ち。

(クラス編)

・製作をしたあと、自主的に箒でゴミを集めたりする姿が見られるようになった。
・クラスの歌声が良くなる。誰かが歌いだすと、それに合わせて歌う姿が増えてきた。

(個人編)

- ・バスの乗り降りをするときに大きな声で挨拶をするようになった女兒。
- ・以前あまり興味を示さなかった泥だんご作りに何度も挑戦するようになった男児。
- ・製作活動で友達を模倣する姿があったが、それがなくなり自分の考えで形を作り出したりと、活動で自信を得ていていた女兒。

年中組 7月 絵本『スイミー』の共同製作



小さな赤い魚が集まってできた大きな魚づくり。赤い魚自体は

個人の絵画活動だが、飾った時にみんなで作った作品になる。

出来上がっていく様子を(床ではなく)垂直に展示したため子ども達に見やすかったよう。活動意欲の持続にもつながったと感じた。絵を描いた満足感が活動後の片付けに現れたと感じた。

年長 女兒Mの記録 2017年6月13日



三角形と同系色を感じて 家の具遊び

友達とおしゃべりをしながらも、黙々と描くM。できた～!

と保育者のところに満足そうに持ってくる。その後駆け寄り、抱っこを求める感じで抱きついてくる。相当満足した様子を感じた。Mの今までの絵を知っている職員は、その違いに驚いた。画面全体を使う描き方がこの絵をきっかけにはじまる。



7/11 家づくりのための設計図の絵。

7/14 家製作
「すごいでしょ」と嬉しそうな表情で、6/13と同じように保育者に抱きついてくる。



様々な創造性 ～年長組 七夕会に向けての人形劇作りでのエピソードより

教諭 岩本里穂

EP1.クラスの創造性～お月様の前



人形劇の練習後の振り返り。お月様の前をバスが帰ってくるところの場面で、Yが「光を当てて影を映し出したらいいん

じゃない」と話す。Y子は4月から光と影に興味を持ち、影絵のペープサート作りなどの経験もあったので、その考えが出てきたのだろうと思われる。しかしクラスの他の子、数人が「クレヨンで描いたペープサートでやったほうがいい」と発言があり意見が分かれた。次の練習で2つともやってみて、どちらかに決めることになった。

日が変わり、朝の会でY子の考えをみんなが見る機会があった。その時、意見は半々に分かれた。その後、練習が終わり、どちらの方法でやるかクラスに問いかけると「ライトでやりたい」というのはY子だけだった。他のみんなは「クレヨンで描いたものを前に持ってきた方がはっきり見えていい」と話す。Y子は納得せずなかなか決まらない。

するとK男が「2つの考えを合体させたらいいんじゃない？」と話す。どういふことか聞いてみると前に出てきて「最初に光を当てて、それから前に持ってきて動かしたらいいんじゃない」と実際にやり方を見せながら演じる。自然と「いいね～」という雰囲気クラス全体になった。

そのあとK太が前に出て動かしてみると、お月様も一緒に動かしているのを見て、N子が「お

月様は動かないよ」と言う。保育者がやってみると、Mがもっと自然にバスが出てくる方法に気づき、やってみせる。「この方法でやろう！」ということに決まる。

話が進まない課題を乗り越えると、今度はより良くしていく意見が相次いで出された。ここにクラスの創造性を感じた。

EP2.折り合い・みんなの満足 ～朝の背景～

人形劇の背景作り。広用紙にグループで描いていく。絵本の絵を参考にできる背景のグループは順調に活動が進んだが、「青空の背景」と決まったグループは、グループ内で意見が分かれ、なかなか描き出せないでいた。

「水色の空がいい」「赤い空がいい」と意見が分かれた。一人ひとりに聞いてみると「青空だから水色がいいと思う」という二人に対し、「夕焼け空は赤」と話すK子。この場面は朝なのか、夜なのか保育者は子ども達と一緒に絵本で確認してみた。「おはようございバス」という台詞に「朝だね!」と気づく子どもたち。するとK子が「朝でも、赤色のお空の時があるよ!」と話す。

イメージの違いがあるのは、それぞれが主体的に活動に向き合っているからだと思う。保育者は「他の人にも聞いてみよう」と話し、クラス全体に問いかけてみた。「水色か青!」と言っている子が多いが、「でも赤色でもいいんじゃない」という声が聞こえた。その後、お互いの色や他のいろいろな色を使って空を塗りあげていた。保育者に「みんなの考えを混ぜているんな色で塗った!」と見せる。3人とも出来上がった作品に満足そうな様子が見られる。

創造性で作り出されることは作品だけでなく、みんなが満足できることでもあった。

EP3.意欲と役割が作った何枚ものねずみ

6月30日金曜日の午後（降園時）に、Y美が保育者のところに来る。「最後しか出番ないから、何か他のもやりたい」と話す。「何や

りたい?」と聞くと「ねずみさんもやりたい」と言う。「いいじゃん、ねずみさんY美ちゃんもやろうよ」と話した。今までのY美の姿から自分から役割を増やしたいと保育者に伝えに来てくれたことに驚いた。その気持ちを大切にしたいと思った。

次の週の月曜日、朝から練習に向けて、ねずみを描く。絵本を見ながら「なんかちょっと変。」とつぶやく。しっかり描いていたが、納得いかない様子。何度も描き直す姿に、人形劇に対する思いを感じた。

練習に行く時「もう捨てちゃった」と言うY美。「なんで捨てたの?」と聞くと「失敗した」と言う。「どこが失敗したの?良かったのに。あとからまた描き直してもいいから、さっきのねずみ持っていかない?」と聞いてみるが「もういい」との一点張り。「じゃあ今日は先生が作ったねずみさん使ってやってみる?」と聞くと、「うん」と言いお遊戯室に向かう。

その練習が終わり、お弁当を食べ終えた午後。Y美が再びねずみを描き始める。1つ出来上がると嬉しそうに「できた!」と持ってきたが、そのできた喜びが嬉しかったのか何度も味わうように何枚も作る姿があった。「見てみて!こんなにたくさんできちゃった!」と嬉しそうに保育者のところに持ってくる。「でも、全部は持てないからどれにしようかな～」と選ぶ。次の練習で真っ先に自分のねずみを持ち、1番にスタンバイしている。ねずみのみんなで言う台詞のところも大きな声で言っていた。

まとめ

「創造性を豊かにする幼児教育」は、感性、想像・表現、「学びに向かう力」、直観タイプ、思考タイプ、それぞれの活動を指導計画で適切に配置することと思いました。創造性を「学びに向かう力を伴った表現」と考えると、心を動かす出来事や、主体的な活動が保障されていることが大切と思いました。